

朝霞市商業振興ビジョンの概要



朝霞市商業振興ビジョン策定の背景と目的

朝霞市の商業は近隣の商業集積地等への消費購買力の流出によって、地元吸引率（市内で買物をする人の人口に対する割合）が下降の一途をたどり、中心商業地の衰退など様々な問題を抱えており、商業振興に向けた積極的な施策展開が求められています。

このような背景から、朝霞市では、平成14年度に朝霞市商業実態調査を実施し、朝霞市商業の実態と振興課題について調査、分析を行いました。今回、その調査結果を基礎資料とし、商業振興に向けた施策展開の指針となる「朝霞市商業振興ビジョン」を策定しました。

朝霞市商業振興の理念と目標

朝霞市の商業については、東京の一大商圈に含まれているという状況下であり、地域商業については、小規模な商店が多く、まちづくりと合わせて商業の近代化を図る必要があると言えます。そして、「地域における消費活動の場」であり、「市民の日常活動の場」でもあるまちとして、地域と調和した活力と賑わいのある商業の振興を進めていくことが大切です。

このような朝霞市における商業振興の基本的な考え方、及び、朝霞市商業実態調査により、朝霞市の商業を取り巻く環境から整理された5つの課題のもとに、朝霞市商業振興ビジョンにおける商業振興の基本理念と目標を以下のように掲げます。

【朝霞市の商業を取り巻く環境から整理される課題総括】

課題 商業活性化のターゲットの設定

課題 消費者ニーズに対応した商店経営

課題 消費者ニーズに対応した商店街の販促活動

課題 商店街を担う人材育成と商店街の連携

課題 都市基盤整備との連携

【朝霞市における商業振興の基本的な考え方】

- 地域社会と調和した活力と賑わいのある商業の振興
- 地域における消費活動の場づくり
- 市民の日常活動の場づくり

【理念】

市民の生活に “にぎわい” と “やすらぎ” を
与える “都市のせせらぎ”

【目標】

商業と地域のパートナーシップの確立
↳ 地元吸収率 50% の回復に向けて

【目標年次】

「商業振興の理念と目標」については、平成16年度を初年度に平成27年度を目標年次とし、その実現に向けた基本的な方向を示します。これは、朝霞市第4次総合振興計画の目標年次を踏まえたものです。また、施策体系とそのプログラム、重点プロジェクトに関しては、平成22年度までの施策展開の状況や社会情勢を勘案し必要に応じ見直しを行います。

【商業振興基本方針】

左頁のような理念と目標のもと、各振興課題に対応するため、4つの商業振興基本方針を定めます。

消費者ニーズをつかんだサービスの向上による個店の魅力づくり

朝霞市の商店街の多くは小規模な個店で構成されています。個店の努力と共に、困難を乗り越え協力しあい、様々な視点から経営面の改善等を通して魅力的な個店づくりを促進します。

商店街の枠にとらわれない、柔軟性のある

商業者ネットワークの確立

まちの中核である商店街が、地域におけるまちづくりにおいて欠かせない存在であることが求められます。商店街活動の中心となるリーダーの育成、商店街間の連携による活動展開、そして、商業者間の情報交換・交流の場を充実することにより、組織力の向上を図ります。

地域コミュニティと調和した自立性の高い、

活力と賑わいのある産業の振興

地域の生活を支える商店街として、日常生活で不可欠な商業サービスの提供、地域コミュニティの核としての機能の充実を図る必要があります。商店街活動における地域住民の参画など、新たな商店街づくりを促進します。

魅力ある商業集積地の形成

子育て環境の充実、高齢者への対応等を身近な地域で行うことにより、利便性のよい商業集積地づくりを促進します。また、朝霞駅周辺、朝霞台駅・北朝霞駅周辺の商業集積地は朝霞市の玄関口として魅力ある空間・雰囲気づくりによるイメージアップ、様々な情報の発信地としての機能充実など、魅力ある商業集積地づくりを促進します。

朝霞市商業振興施策体系

朝霞市商業振興ビジョンの目標である「商業と地域のパートナーシップの確立～地元吸収率50%の回復に向けて」の実現に向け挙げられた4つの商業振興基本方針のもと、以下に示す施策を展開していきます。

基本方針

消費者ニーズをつかんだサービスの向上による個店の魅力づくり

時代の変化や消費者ニーズを把握し、それらに対応した商業展開ができるよう、経営体質の強化や、適切な店舗づくりなどを進めるための指導・助言に努めます。

経営者支援

- 1) 経営体質の強化
- 2) 情報化の促進

消費者ニーズ把握

- 1) 消費者ニーズの把握
- 2) 個店の魅力強化



基本方針

商店街の枠にとらわれない、柔軟性のある商業者ネットワークの確立

次代を担う優れた人材の育成、商店主間での情報交換また異業種も含めた交流の促進に努めます。また、衰退しつつある商店会組織を健全に運営する為の検討を支援します。

人材の育成

- 1) 人材の育成
- 2) 人的ネットワークの強化

組織の育成

- 1) 商店会の組織の見直し
- 2) 商店会の法人化



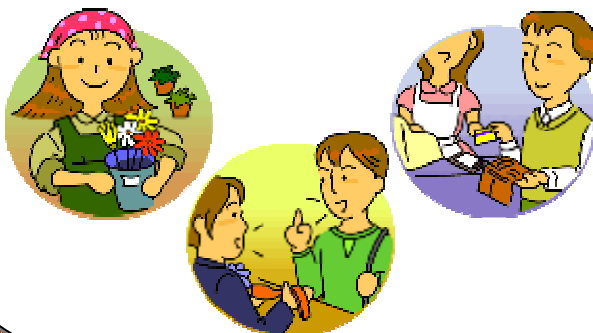
基本方針

地域コミュニティと調和した自立性の高い、活力と賑わいのある産業の振興

効率的・効果的な販促活動の啓発、また地域の人々が行っている各種活動との連携強化を啓発します。また、企業化の発掘など新たな産業活動の取組みを支援します。

販売促進とイベント活動

- 1) イベント等の連携強化
- 2) ポイントカードの普及
- 3) 商店街の魅力強化



地域との連携

- 1) 地域活動との連携強化
- 2) 学校・学生との連携強化
- 3) 商店街美化の促進
- 4) 情報発信の充実・強化

新たな産業活動の取組み

- 1) 起業家の発掘・育成
- 2) 起業・創業の支援
- 3) 新規産業の育成

基本方針

魅力ある商業集積地の形成

快適で個性ある商店街作りを啓発するとともに、多様な商業機能の充実により、身近で便利な商業環境づくりが図られるよう努めます。

商業基盤施設等の整備

- 1) 商店街サインの充実
- 2) 歩行空間の改善
- 3) 共同駐車場・駐輪場の整備
- 4) 朝霞駅周辺整備の促進

商業機能の充実

- 1) 不足業種の充実
- 2) 高齢者等福祉サービスの充実
- 3) 育児支援サービスの充実
- 4) 活動拠点の充実



商店街類型別将来像

朝霞市における商業の集積として、12の商店街が分布しています。これらを都市形成の過程や地区の特性、商店街の振興課題等に基づき、4つのタイプに分類、類型化をしました。

それぞれの特徴や個性を活かした将来像を設定することで、各タイプに即した商業振興・活性化の方向を整理しました。

市境付近タイプ

—— 北一商店会・朝志ヶ丘商店会・弁財原商店会
溝浜商店街・六道地藏商店会 ——

地域に密着した商業地としての充実と独自性の強化

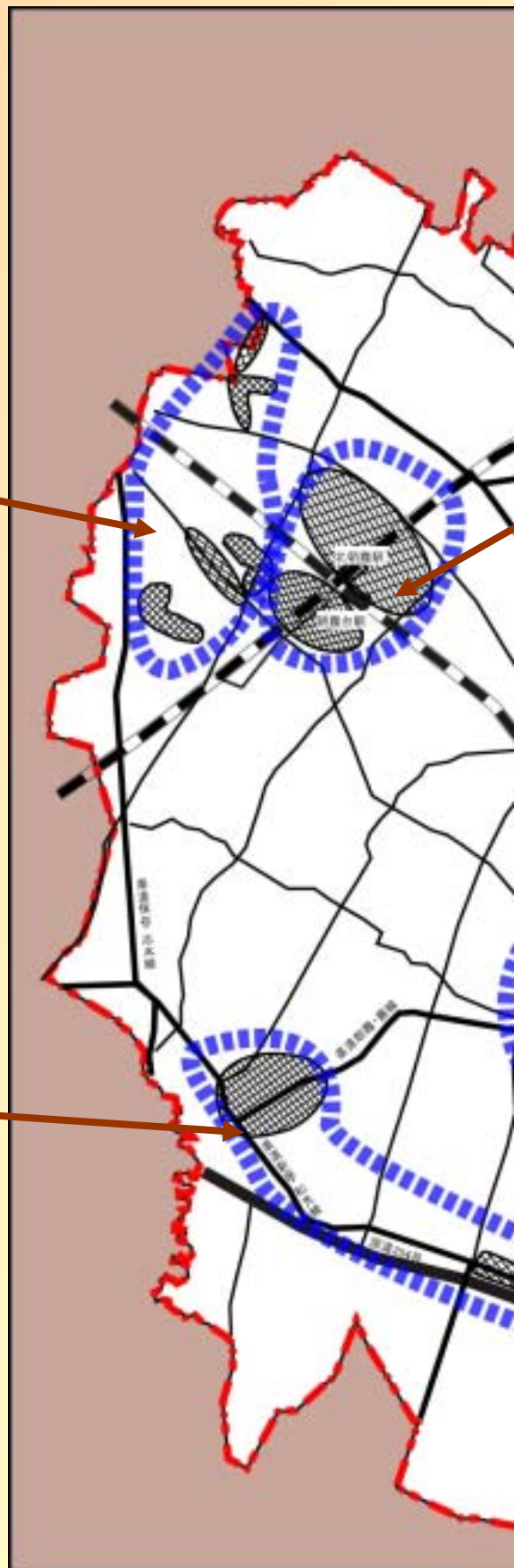
市内、市外の大型店が周辺に分布しており、買い物客が流出していますが、身近な商店街としての存続も求められています。商店の集積を図ると共に、大型店とは異なる地域に密着した生活環境の形成を目指します。

幹線道路沿道等タイプ

—— 栄町町内会商工部・膝折町商店会 ——

身近な生活を支援する消費者サービスの強化とまとまりづくり

川越街道等幹線道路沿道を中心に商店が町内の広範囲に分布しています。商店街の形態をなしていない部分も多くあり、連携強化を図りながら、身近なサービスの充実を目指します。





朝霞台・北朝霞駅 周辺タイプ

—— 朝霞台商業振興会・

北朝霞商業振興会 ——

にぎわいのある商業・業務 機能の充実

乗換え駅である朝霞台・北朝霞駅利用者、エリアに隣接する大学への通学者、またエリア後背地に転入する若いファミリー層を中心としたマンション住民等、高い商業ポテンシャルを活かすべく、より一層の商業業務機能の充実が求められています。

朝霞駅周辺タイプ

—— 朝霞駅前商店会・朝霞本町商店会

仲町商工振興会 ——

朝霞市の核となる魅力ある 中心商業地の形成

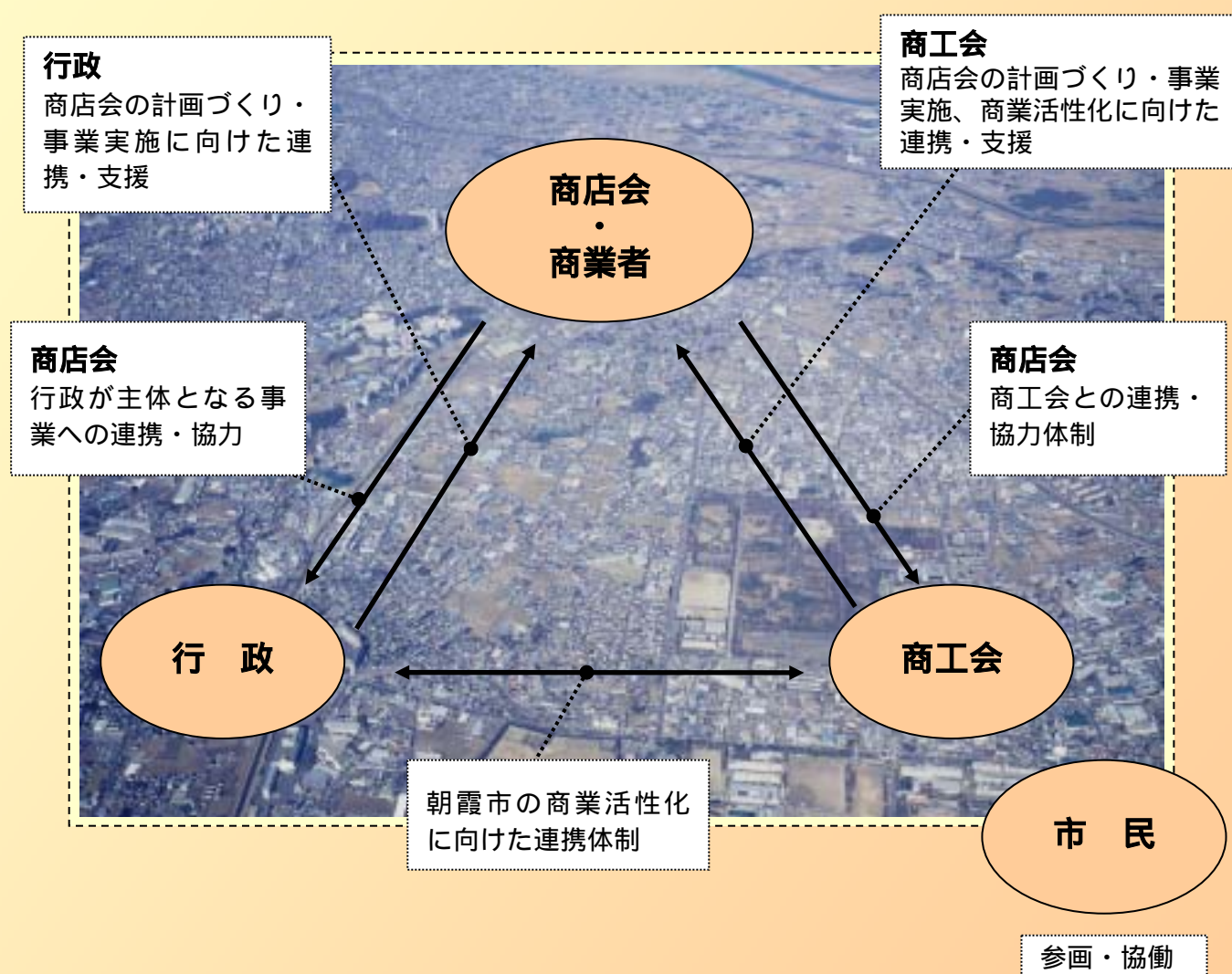
朝霞駅周辺整備事業にともなう環境の変化をふまえ、商業・娯楽機能の充実、商店街組織の充実及び地域との連携強化を図り、界隈性の豊かな活気とにぎわいのある中心商業地の形成を目指します。



施策推進体制

朝霞市商業ビジョンの実現化に向けては、商店会、行政・商工会が、本ビジョンで示される方針の実現に向かって、具体的な取組みを進めていくことが大切です。下図のような連携体制のもと、商店会、市及び商工会が協力・連携し、朝霞市商業振興ビジョンの実現＝商店街の活力再生を目指します。

また、商業振興活性化には商業者等の積極的な取組みが不可欠ですが、消費購買力としての市民に対しても、商店会等の取組みへの参画や、地域活動・まちづくり活動等の実践の協働を図ります。



平成 15 年 10 月

朝霞市市民環境部商工農政課

〒351-8501 埼玉県朝霞市本町 1 丁目 1 番 1 号

電話番号 048-463-1111 (内線 2243)